

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 東海財務局長

【提出日】 2020年4月14日

【四半期会計期間】 第40期第2四半期(自 2019年12月1日 至 2020年2月29日)

【会社名】 株式会社AFC - HDアムスライフサイエンス

【英訳名】 AFC - HD AMS Life Science Co.,Ltd.

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 浅山 雄彦

【本店の所在の場所】 静岡県静岡市駿河区豊田三丁目6番36号

【電話番号】 054-281-0585(代表)

【事務連絡者氏名】 常務取締役管理本部管掌 田村 茂樹

【最寄りの連絡場所】 静岡県静岡市駿河区豊田三丁目6番36号

【電話番号】 054-281-5238(直通)

【事務連絡者氏名】 常務取締役管理本部管掌 田村 茂樹

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

回次		第39期 第2四半期 連結累計期間	第40期 第2四半期 連結累計期間	第39期
会計期間		自 2018年9月1日 至 2019年2月28日	自 2019年9月1日 至 2020年2月29日	自 2018年9月1日 至 2019年8月31日
売上高	(千円)	8,338,164	7,892,851	16,252,889
経常利益	(千円)	617,909	567,688	1,014,876
親会社株主に帰属する 四半期(当期)純利益	(千円)	502,363	352,799	783,292
四半期包括利益又は包括利益	(千円)	498,398	366,388	738,136
純資産額	(千円)	10,010,747	10,265,250	10,109,847
総資産額	(千円)	18,124,036	18,248,951	18,327,080
1株当たり四半期(当期) 純利益金額	(円)	35.72	25.09	55.70
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益金額	(円)	-	-	-
自己資本比率	(%)	55.2	56.3	55.2
営業活動による キャッシュ・フロー	(千円)	244,904	537,846	1,131,930
投資活動による キャッシュ・フロー	(千円)	58,359	290,110	202,217
財務活動による キャッシュ・フロー	(千円)	289,701	327,623	546,880
現金及び現金同等物の 四半期末(期末)残高	(千円)	3,421,350	3,827,067	3,902,201

回次		第39期 第2四半期 連結会計期間	第40期 第2四半期 連結会計期間
会計期間		自 2018年12月1日 至 2019年2月28日	自 2019年12月1日 至 2020年2月29日
1株当たり四半期純利益金額	(円)	19.57	13.61

- (注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
2. 売上高には、消費税等は含まれておりません。
3. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2 【事業の内容】

当第2四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)において営まれている事業の内容について、重要な変更はありません。

また、主要な関係会社についても異動はありません。

第2 【事業の状況】

1 【事業等のリスク】

当第2四半期連結累計期間において、当四半期報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項の発生又は前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」についての重要な変更はありません。

なお、新型コロナウイルスの感染症拡大による事業への影響については、現時点においては販売の一部に留まっておりますが、今後の推移状況を注視してまいります。

2 【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループ（当社及び当社の連結子会社）が判断したものであります。

(1) 財政状態及び経営成績の状況

経営成績

当第2四半期連結累計期間におけるわが国の経済は、企業収益が高水準を維持し、雇用・所得環境は継続的な改善がみられるなど、緩やかな回復基調が続きました。しかし、本年1月以降、新型コロナウイルスの感染が世界的に拡大しており、世界経済に大きな影響を及ぼすことが危惧されます。

当社グループが属する健康食品市場は、中国越境ECの規制強化などによりインバウンド消費が失速するなど軟調となったものの、近年は、主力ユーザーである中高年齢層に加え、引き締まった身体づくりや栄養補給を目的として、若年層における需要が続いております。

このような状況の当社グループでは、美容商材の伸長により海外部門の売上高が前年同期の2倍となったものの、前年同期に好調であった乳酸菌・酵母関連商品の受注減少などによりOEM部門が減収となり、当第2四半期の連結売上高は7,892百万円（前年同期比5.3%減）、営業利益は565百万円（前年同期比5.5%減）、経常利益は567百万円（前年同期比8.1%減）となりました。また、親会社株主に帰属する四半期純利益は、固定資産売却益の減少の影響も加わり、352百万円（前年同期比29.8%減）となりました。

セグメントごとの経営成績は、次のとおりであります。

（ヘルスケア事業）

・OEM部門

当社グループの主力事業である当部門は、ドラッグストア向けの定番商材が堅調を維持いたしました。一方、前年同期に好調であった乳酸菌・酵母関連商品の受注が減少したことなどにより、当部門の売上高は前年同期を下回りました。

機能性表示食品については、前期に続き届出のサポートを強化しており、累計49社126品目の届出が受理されております。

生産面においては、期初にハードカプセル充填機を1台増設し、増産による納期短縮を図っております。

・海外部門

アジア地域を主な取引先とする当部門は、既存顧客における受注が堅調に推移いたしました。その中でも、インドネシアの顧客において美容商材が大きく伸長いたしました。その結果、当部門の売上高は前年同期の2倍となりました。

・通信販売部門

機能性表示食品『ルテオリンGOLD』『魚のDHA・EPA GOLD』『ギャバGOLD』『イソフラボンGOLD』『ブラックジンジャーGOLD』の5品目を新発売するとともに、更なるラインアップ拡充に向け、新商品の開発に取り組みました。また、定番人気商品『薬用アミノ酸シャンプー爽快柑』などを商材とした記事広告などの新聞広告投下により、新規顧客の獲得が順調に推移したほか、同シリーズの受注が伸長いたしました。しかしながら、主力商品の一つである『葉酸サプリ』の受注が減少したことなどにより、当部門の売上高を伸ばすまでには至りませんでした。

・卸販売部門

販路拡大及び販売強化を目的として積極的に展示会や販売会へ出展いたしました。機能性表示食品『菊の花（ルテオリン）プレミアム』『GABAプレミアム』『ブラックジンジャープレミアム』『DHA・EPAプレミアム』の4品目を新発売し、既存の機能性表示食品と合わせて全7品目の営業活動を強化いたしました。主力商品の“華舞の食べるコラーゲン”や“ハートフルシリーズ”などが好調に推移いたしました。また、“miteteシリーズ”などが苦戦したことにより、当部門の売上高は前年同期を下回りました。

・店舗販売部門

期初に人気商品『ラ・ヴィ・プラセンタ』のパッケージをリニューアルし、販売を強化したことにより、同商品が好調な売れ行きとなりました。また、前期に引き続き、百貨店主催の大型催事に出展したほか、セミナーや相談会などを積極的に実施いたしました。その結果、既存店ベースでは前年同期の売上高を上回ったものの、店舗数の減少による減収が影響し、当部門の売上高は前年同期並みとなりました。

以上の結果、ヘルスケア事業の業績は、売上高7,210百万円（前年同期比6.2%減）となったものの、粗利益率の改善に加え、広告宣伝費などの節減効果により、営業利益860百万円（前年同期比4.2%増）（全社費用調整前）となりました。

（医薬品事業）

医薬品市場は、大別して医師の処方箋に基づき病院・診療所、調剤薬局で購入する医療用医薬品市場と、医師の処方箋が要らず、ドラッグストアで購入する一般用医薬品市場に分けられます。

医療用医薬品につきましては、医療用ジェネリック医薬品である『ピムロ顆粒』が順調に売上を伸ばしました。また、『シルデナフィル錠』（勃起改善薬）、『フィナステリド錠』（AGA治療薬）につきましても、重点販売商品として営業を強化したことが奏功し、売上拡大に繋がりました。

一般用医薬品につきましては、医薬品のインターネット販売が解禁され5年が経過し、漢方薬のPB受注が増加いたしました。

以上の結果、医薬品事業の業績は、売上高が682百万円（前年同期比5.4%増）、営業損失7百万円（前年同期は26百万円の営業損失）となりました。

財政状態

（流動資産）

当第2四半期連結会計期間末における流動資産合計は、前連結会計年度末に比べ72百万円減少し、9,556百万円となりました。この減少要因は主として、原材料及び貯蔵品が54百万円増加した反面、流動資産のその他が67百万円、現金及び預金が47百万円減少したことによるものであります。

（固定資産）

当第2四半期連結会計期間末における固定資産合計は、前連結会計年度末に比べ5百万円減少し、8,692百万円となりました。この減少要因は主として、投資その他の資産のその他が57百万円、無形固定資産のその他が42百万円増加した反面、償却により有形固定資産全体で99百万円減少したことによるものであります。

（流動負債）

当第2四半期連結会計期間末における流動負債合計は、前連結会計年度末に比べ869百万円減少し、6,026百万円となりました。この減少要因は主として、返済期限が到来した1年以内返済予定の長期借入金の借り換えなどにより、短期借入金が717百万円減少したことによるものであります。

(固定負債)

当第2四半期連結会計期間末における固定負債合計は、前連結会計年度末に比べ636百万円増加し、1,957百万円となりました。この増加要因は主として、返済期限が到来した1年以内返済予定の長期借入金の借り換えにより、長期借入金が648百万円増加したことによるものであります。

(純資産)

当第2四半期連結会計期間末における純資産合計は、前連結会計年度末に比べ155百万円増加し、10,265百万円となりました。この増加要因は主として、親会社株主に帰属する四半期純利益の計上により利益剰余金が141百万円増加したことによるものであります。

(2) キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結累計期間における連結ベースの現金及び現金同等物（以下、「資金」という。）は、前連結会計年度末に比べ75百万円減少し、3,827百万円となりました。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果得られた資金は537百万円（前年同期244百万円の収入）となりました。

これは主として、法人税等の支払額209百万円、たな卸資産の増加額91百万円などにより資金が減少した反面、税金等調整前四半期純利益538百万円、減価償却費246百万円などにより資金が増加したことによるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果使用した資金は290百万円（前年同期58百万円の支出）となりました。

これは主として、有形及び無形固定資産の取得による支出194百万円、投資有価証券の取得による支出105百万円などにより資金が減少したものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果使用した資金は327百万円（前年同期289百万円の支出）となりました。

これは主として、長期借入れによる収入700百万円より資金が増加した反面、長期借入金の返済による支出768百万円、配当金の支払額209百万円などにより資金が減少したことによるものであります。

(3) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第2四半期連結累計期間において、当社グループの事業上及び財務上の対処すべき課題に重要な変更及び新たに生じた課題はありません。

(4) 研究開発活動

当第2四半期連結累計期間の研究開発費の総額は82,281千円であります。

3 【経営上の重要な契約等】

当第2四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

第3 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	30,576,000
計	30,576,000

【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間 末現在発行数(株) (2020年2月29日)	提出日現在 発行数(株) (2020年4月14日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	14,144,720	14,144,720	東京証券取引所 JASDAQ (スタンダード)	単元株式数は100株でありま す。
計	14,144,720	14,144,720		

(2) 【新株予約権等の状況】

【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
2019年12月1日～ 2020年2月29日		14,144,720		2,131,839		2,209,025

(5) 【大株主の状況】

2020年2月29日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (株)	発行済株式 (自己株式を 除く。)の総数 に対する所有 株式数の割合 (%)
浅山 忠彦	静岡県静岡市駿河区	2,150,070	15.29
浅山 雄彦	静岡県静岡市駿河区	1,111,930	7.91
浅山 麻衣子	静岡県静岡市駿河区	334,000	2.37
浅山 麻里奈	静岡県静岡市駿河区	330,000	2.35
アムスライフサイエンス取引先 持株会	静岡県静岡市駿河区豊田三丁目6番36号	278,800	1.98
株式会社静岡銀行 (常任代理人日本マスタートラスト 信託銀行株式会社)	静岡県静岡市葵区呉服町一丁目10番地 (東京都港区浜松町二丁目11番3号)	124,900	0.89
福地 千佳	静岡県静岡市駿河区	114,420	0.81
南 良 治	滋賀県大津市	98,600	0.70
J Pモルガン証券株式会社	東京都千代田区丸の内二丁目7番3号	83,500	0.59
アムス従業員持株会	静岡県静岡市駿河区豊田三丁目6番36号	73,400	0.52
計	-	4,699,620	33.42

(注) 上記のほか当社所有の自己株式が81,012株あります。

(6) 【議決権の状況】

【発行済株式】

2020年2月29日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 81,000		
完全議決権株式(その他)	普通株式 14,062,300	140,623	
単元未満株式	普通株式 1,420		
発行済株式総数	14,144,720		
総株主の議決権		140,623	

【自己株式等】

2020年2月29日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) 株式会社AFC - HD アムスライフサイエンス	静岡県静岡市駿河区 豊田三丁目6番36号	81,000		81,000	0.57
計		81,000		81,000	0.57

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

第4 【経理の状況】

1. 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(2007年内閣府令第64号)に基づいて作成しております。

2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期連結会計期間(2019年12月1日から2020年2月29日まで)及び第2四半期連結累計期間(2019年9月1日から2020年2月29日まで)に係る四半期連結財務諸表について、有限責任監査法人トーマツによる四半期レビューを受けております。

1 【四半期連結財務諸表】

(1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2019年8月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2020年2月29日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	4,437,201	4,390,067
受取手形及び売掛金	² 2,163,999	² 2,138,695
商品及び製品	1,088,030	1,087,721
仕掛品	819,215	856,631
原材料及び貯蔵品	916,063	970,457
その他	236,960	169,628
貸倒引当金	31,920	56,418
流動資産合計	9,629,550	9,556,784
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	2,853,907	2,792,497
土地	3,895,432	3,895,432
その他(純額)	1,107,052	1,069,265
有形固定資産合計	7,856,393	7,757,195
無形固定資産		
のれん	1,020	510
その他	147,596	190,286
無形固定資産合計	148,617	190,797
投資その他の資産		
その他	714,083	771,733
貸倒引当金	21,563	27,558
投資その他の資産合計	692,520	744,174
固定資産合計	8,697,530	8,692,167
資産合計	18,327,080	18,248,951
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	² 1,814,273	² 1,791,921
短期借入金	3,593,459	2,876,323
未払法人税等	245,855	219,736
賞与引当金	171,000	170,000
ポイント引当金	19,137	19,218
その他	² 1,052,474	² 949,059
流動負債合計	6,896,200	6,026,257
固定負債		
長期借入金	485,802	1,134,064
役員退職慰労引当金	180,858	189,055
退職給付に係る負債	425,693	442,770
負ののれん	1,126	844
その他	227,552	190,707
固定負債合計	1,321,033	1,957,443
負債合計	8,217,233	7,983,701

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2019年8月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2020年2月29日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,131,839	2,131,839
資本剰余金	2,195,880	2,195,880
利益剰余金	5,913,891	6,055,734
自己株式	59,284	59,314
株主資本合計	10,182,327	10,324,140
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	67,431	58,531
為替換算調整勘定	5,048	358
その他の包括利益累計額合計	72,479	58,890
純資産合計	10,109,847	10,265,250
負債純資産合計	18,327,080	18,248,951

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第2四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自2018年9月1日 至2019年2月28日)	当第2四半期連結累計期間 (自2019年9月1日 至2020年2月29日)
売上高	8,338,164	7,892,851
売上原価	6,012,459	5,572,711
売上総利益	2,325,705	2,320,139
販売費及び一般管理費	1,727,209	1,754,860
営業利益	598,495	565,279
営業外収益		
受取利息	36	1,673
受取配当金	6,619	5,967
投資有価証券売却益	19,311	578
受取賃貸料	10,071	11,050
負ののれん償却額	281	281
その他	7,821	6,649
営業外収益合計	44,142	26,200
営業外費用		
支払利息	18,773	16,839
投資有価証券売却損	-	472
その他	5,953	6,479
営業外費用合計	24,727	23,791
経常利益	617,909	567,688
特別利益		
固定資産売却益	95,839	175
特別利益合計	95,839	175
特別損失		
固定資産除却損	9,964	6,957
投資有価証券評価損	6,485	22,344
特別損失合計	16,449	29,301
税金等調整前四半期純利益	697,299	538,561
法人税、住民税及び事業税	187,554	186,779
法人税等調整額	7,381	1,016
法人税等合計	194,936	185,762
四半期純利益	502,363	352,799
親会社株主に帰属する四半期純利益	502,363	352,799

【四半期連結包括利益計算書】

【第2四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自2018年9月1日 至2019年2月28日)	当第2四半期連結累計期間 (自2019年9月1日 至2020年2月29日)
四半期純利益	502,363	352,799
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	3,964	8,900
為替換算調整勘定	-	4,689
その他の包括利益合計	3,964	13,589
四半期包括利益	498,398	366,388
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	498,398	366,388
非支配株主に係る四半期包括利益	-	-

(3) 【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自2018年9月1日 至2019年2月28日)	当第2四半期連結累計期間 (自2019年9月1日 至2020年2月29日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	697,299	538,561
減価償却費	228,654	246,288
のれん償却額	228	228
賞与引当金の増減額(は減少)	1,800	1,000
ポイント引当金の増減額(は減少)	342	81
役員退職慰労引当金の増減額(は減少)	7,706	8,197
受取利息及び受取配当金	6,656	7,640
支払利息	18,773	16,839
固定資産売却損益(は益)	95,839	175
固定資産除却損	9,964	6,957
投資有価証券評価損益(は益)	6,485	22,344
売上債権の増減額(は増加)	239,243	25,303
たな卸資産の増減額(は増加)	76,755	91,501
仕入債務の増減額(は減少)	114,322	22,352
未払消費税等の増減額(は減少)	27,993	88,315
その他	79,477	101,202
小計	386,269	755,018
利息及び配当金の受取額	6,641	7,618
利息の支払額	18,580	14,805
法人税等の支払額	129,424	209,984
営業活動によるキャッシュ・フロー	244,904	537,846
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形及び無形固定資産の取得による支出	272,675	194,704
有形及び無形固定資産の売却による収入	291,181	175
投資有価証券の取得による支出	638,418	105,654
投資有価証券の売却による収入	570,902	37,890
その他	9,349	27,818
投資活動によるキャッシュ・フロー	58,359	290,110
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額(は減少)	210,000	-
長期借入れによる収入	-	700,000
長期借入金の返済による支出	252,174	768,874
社債の償還による支出	60,000	-
配当金の支払額	140,024	209,815
その他	47,503	48,934
財務活動によるキャッシュ・フロー	289,701	327,623
現金及び現金同等物に係る換算差額	-	4,753
現金及び現金同等物の増減額(は減少)	103,156	75,134
現金及び現金同等物の期首残高	3,524,507	3,902,201
現金及び現金同等物の四半期末残高	3,421,350	3,827,067

【注記事項】

(四半期連結貸借対照表関係)

1 手形割引高

	前連結会計年度 (2019年8月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2020年2月29日)
受取手形割引高	6,227千円	7,208千円

2 四半期連結会計期間末日満期手形の会計処理については、手形交換日をもって決済処理しております。なお、当第2四半期連結会計期間末日が金融機関の休日であったため、次の四半期連結会計期間末日満期手形が、四半期連結会計期間末残高に含まれております。

	前連結会計年度 (2019年8月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2020年2月29日)
受取手形	25,032千円	44,797千円
支払手形	69,202千円	66,148千円
その他(設備関係支払手形)	18,872千円	4,854千円

(四半期連結損益計算書関係)

販売費及び一般管理費の主なもの

	前第2四半期連結累計期間 (自 2018年9月1日 至 2019年2月28日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2019年9月1日 至 2020年2月29日)
広告宣伝費	272,428千円	225,701千円
給料手当	567,483千円	552,971千円
賞与引当金繰入額	56,849千円	65,653千円
退職給付費用	14,706千円	11,365千円
役員退職慰労引当金繰入額	6,625千円	7,107千円
貸倒引当金繰入額	- 千円	32,810千円
のれん償却額	510千円	510千円

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係

	前第2四半期連結累計期間 (自 2018年9月1日 至 2019年2月28日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2019年9月1日 至 2020年2月29日)
現金及び預金勘定	3,994,350千円	4,390,067千円
預入期間が3ヶ月を超える 定期預金等	573,000千円	563,000千円
現金及び現金同等物	3,421,350千円	3,827,067千円

(株主資本等関係)

前第2四半期連結累計期間(自 2018年9月1日 至 2019年2月28日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2018年11月27日 定時株主総会	普通株式	140,637	10	2018年8月31日	2018年11月28日	利益剰余金

2. 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間の末日
後となるもの

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2019年4月9日 取締役会	普通株式	140,637	10	2019年2月28日	2019年5月30日	利益剰余金

当第2四半期連結累計期間(自 2019年9月1日 至 2020年2月29日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2019年11月26日 定時株主総会	普通株式	210,956	15	2019年8月31日	2019年11月27日	利益剰余金

2. 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間の末日
後となるもの

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2020年4月9日 取締役会	普通株式	140,637	10	2020年2月29日	2020年5月27日	利益剰余金

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第2四半期連結累計期間(自 2018年9月1日 至 2019年2月28日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント		合計
	ヘルスケア事業	医薬品事業	
売上高			
外部顧客への売上高	7,690,762	647,402	8,338,164
セグメント間の内部売上高 又は振替高	-	-	-
計	7,690,762	647,402	8,338,164
セグメント利益又は損失()	825,674	26,248	799,425

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容

(差異調整に関する事項)

(単位：千円)

利益	金額
報告セグメント計	799,425
全社費用(注)	200,930
四半期連結損益計算書の営業利益	598,495

(注)全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

当第2四半期連結累計期間(自 2019年9月1日 至 2020年2月29日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント		合計
	ヘルスケア事業	医薬品事業	
売上高			
外部顧客への売上高	7,210,463	682,387	7,892,851
セグメント間の内部売上高 又は振替高	-	-	-
計	7,210,463	682,387	7,892,851
セグメント利益又は損失()	860,161	7,772	852,388

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容
(差異調整に関する事項)

(単位：千円)

利益	金額
報告セグメント計	852,388
全社費用(注)	287,109
四半期連結損益計算書の営業利益	565,279

(注)全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報
 該当事項はありません。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前第2四半期連結累計期間 (自 2018年9月1日 至 2019年2月28日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2019年9月1日 至 2020年2月29日)
1株当たり四半期純利益金額	35円72銭	25円09銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益金額(千円)	502,363	352,799
普通株主に帰属しない金額(千円)		
普通株式に係る親会社株主に帰属する 四半期純利益金額(千円)	502,363	352,799
普通株式の期中平均株式数(株)	14,063,751	14,063,746

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2 【その他】

第40期(2019年9月1日から2020年8月31日まで)中間配当については、2020年4月9日開催の取締役会において、2020年2月29日の株主名簿に記録された株主に対し、次のとおり中間配当を行うことを決議いたしました。

中間配当金の総額	140,637千円
1株当たりの中間配当金額	10円00銭
支払請求の効力発生日及び支払開始日	2020年5月27日

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

2020年4月13日

株式会社AFC - HDアムスライフサイエンス
取締役会 御中

有限責任監査法人 トーマツ

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 森田 健司

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 嶋田 聖

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社AFC-HDアムスライフサイエンスの2019年9月1日から2020年8月31日までの連結会計年度の第2四半期連結会計期間（2019年12月1日から2020年2月29日まで）及び第2四半期連結累計期間（2019年9月1日から2020年2月29日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社AFC-HDアムスライフサイエンス及び連結子会社の2020年2月29日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第2四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(注) 1 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。

2 XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれていません。